

「長崎まちづくりのグランドデザイン 2050（原案）」へのパブリック・コメント一覧（回答）

質問者 番号	No	意見の内容（全文）	長崎市の考え方
1	1	<p>「長崎まちづくりのグランドデザイン意見交換会」にも参加させていただきました。改めて、長崎まちづくりのグランドデザインについて意見を述べさせていただきます。</p> <p>私の提案は、屋根を活用した街づくり（利便性の向上、全天候でも子供や市民が野外で集える賑わいのある場所の確保）市民や子供が遊べる場所に長崎市の歩道は中心部程狭いため、縁よりも歩道の広さをの以上 3 項目です。</p> <p>1.屋根を活用した街づくり（利便性の向上、全天候でも子供や市民が野外で集える賑わいのある場所の確保）</p> <p>すでに様々な県や市町村で、屋根を活用した街づくりは行われています。メリットの 1 つは、老若男女すべての世代においてどんな天候でも利便性の向上となり、子供や市民が野外で集える賑わいのある場所の確保ができるということです。例えば、電停やバス停から公共施設や商業施設に行くときに、屋根があると傘がいらないので荷物が持ちやすくなります。猛暑日も日陰を歩いてたどり着けます。雪の日も積もらない安全な場所を歩くことができます。今後ハブとなる電停やバス停から周辺の施設までを屋根で繋ぐことも積極的に考えて良いと思います。長崎駅からも商業施設やバスセンターまで屋根で繋がっていますね。中央橋や浜の町電停付近でも何故同様のことができないのか不思議です。利便</p>	<p>屋根などによる天候に左右されない集える場所などの確保は、まちの賑わい創出や回遊性向上に向けて重要な視点であると認識しております。しかしながら、屋根の設置は、多額の費用を要するという課題もございますので、屋根の設置に限らず、既存施設の活用なども含め、検討していきたいと考えています。</p>

	<p>性は大きく向上すると思います。</p> <p>また、公共的な施設では施設前に緑のスペースや憩いのスペースを設置されていることが多いですが、残念ながら現在はそこには屋根がありません。今後は、屋根広場を設置するよう長崎市で規定を作ることも良いと思います。イメージとしては、その公共的な施設前の屋根広場で、マルシェを開いたり、雨の日に子供達が鬼ごっこや羽根つきやダンスの練習などができるような広さが理想です。さらに、この施設前の屋根広場は災害時の重要なスペースともなります。施設内ではないところがメリットで、救助車や物資輸送車、医療車がそのまま設置活動できます。この場所に屋根がないと雨の日、猛暑の日は救助者や被災市民は大変です。</p> <p>現在、長崎市では、長崎駅前の屋根広場は活用度が高いです。このような場所が市内随所にあれば、雨天関係なく様々な活用ができるのではないかでしょうか。残念ながら市民図書館前や県庁前や市役所前、県立図書館、市民会館前は屋根広場がないもしくは非常に狭いですね。どこもあんなに広い野外スペースがあるのに、雨の日はひとがいません。集うスペースがなくもったいないですね。全天候で予約しなくてもよくて子どもたちやその家族・市民みんなが活動できる屋根広場を作って欲しいものです。また、公園や広場にも大きな屋根広場があれば、子どもたちは雨の日も元気に外で遊ぶことができます。“雨の日はゲームじゃなくて屋根広場で遊ぼう”というくらい魅力的な市になるとよいと思います。水辺の森公園、桜町公園、中央公園、湊公園などにも大きな屋根広場を作ったらよいと思います。雨の日はやはり人が少な</p>	
--	---	--

	く寂しいです。	
2	<p>2.体育館や公共の施設をもっと市民や子供が遊べる場所に屋根を活用した街づくり、と通ずるものがありますが、全天候で子どもたちや市民が集える場所として、体育館や公共の施設をもっと開放してよいと思います。体育館の無料開放や、現在の県庁のように休日の無料開放の市役所や支所でもやってよいと思います。会議室の開放です。予約制ではなく、無料開放のような取り組みがあってもよいと思います。他方で、上長崎ふれあいセンターやその他支所では、未だに会議室や施設の予約が現地のみでインターネットではできませんね。改善が必要なところではないでしょうか。</p> <p>長崎市は、雨の日や猛暑日の子どもの遊び場が少ないです。1歳～3歳は子育てセンターがありますが、4歳から途端に遊び場がなくなります。路面電車で行ける市街地にどんどん雨の日や猛暑日でも子供が遊べる場所を作りたいです。</p>	<p>集いの場や遊び場の確保に向けては、既存施設の有効活用や、予約の仕方なども含めた利用しやすい運用は重要な要素であると考えていますので、いただいたご意見を踏まえ、本編 15 ページ「ニーズを反映した憩い・遊び場の確保」を次のとおり修正します。</p> <p>【修正前】</p> <p>小規模公園等を、住民ニーズを踏まえ再編・改善するなど、満足度が高い憩いや遊び場の確保</p> <p>【修正後】</p> <p><u>既存施設を有効活用するとともに、</u>小規模公園などを住民ニーズに基づいて再編・改善するなど、満足度が高い憩いや遊び場の確保 なお、ふれあいセンター・支所の施設の予約方法につきまして、関係所属に情報共有させていただきます。</p>
3	<p>3.長崎市の歩道は中心部程狭いため、緑よりも歩道の広さを</p> <p>市街地の歩道は狭いうえに、街路樹や植栽があり、人が歩くスペースを奪っています。緑の設置は法律等で決まっているかもしれません、長崎市は周囲をみれば山ばかり緑ばかりで、市街地の歩道にわざわざ街路樹や植栽を設置する必要は少ないと思います。特に、2mほどの歩道幅がない場所では、街路樹や植栽を撤去する必要があるのではないかでしょうか。対向者とすれ違う幅がないのですからベビーカーや子どもたちを歩かせていてもと</p>	<p>車道や歩道幅員、街路樹の設置などは、道路法に基づく道路構造令等を踏まえ、現地状況を勘案しながら設計がなされており、歩行者通行量に見合った適正な歩道幅員の確保はもちろん、十分な歩道幅員を確保することは、歩行者の安全性・快適性確保のため重要な要素であると認識しております。</p> <p>グランドデザインにおいても、都心部の取組み方針として、「人を中心の楽しい都市空間を創出しよう」を掲げ、車中心から人中心の道路空間の創出を図る考えです。</p> <p>また、歩行空間の確保と合わせて、道路などの公共空間における緑</p>

		<p>ても危険が多いのです。近々に調査して歩道幅の確保をお願いしたいと思います。</p> <p>以上、3点を提案いたします。子育てしやすい長崎市、未来ある長崎市、どんな天候でも活動できる賑わいのある長崎市を期待しています。</p>	<p>の設置は、緑陰による歩行空間の快適性の確保や脱炭素に資するまちづくりを推進する上でも重要な要素であると考えており、本編30ページにテーマ共通の取組みとして「まちづくり GX の推進」を掲げております。</p>
2	4	<p>公共交通関連について</p> <p>現在、バスを多く利用してみて、乗り換えの回数増や、減便による待ち時間の増加、始発にバスが定時で来ないという問題に直面しています。中央部より分岐してのハブ拠点の整備は路線利用者の数を見ながらある程度必要であるとして、高齢化により座席に座れないことでの利用控え（高齢者同士での席の譲り合いを含む）も考慮した車両の導入も先々必要になってくるかと存じます。</p>	<p>公共交通機関は、生活に欠かせない重要な社会インフラであり、グランドデザインにおいても、「都心部と周辺部のつながり」というテーマのもと、公共交通の持続可能性の向上や DX の推進などの取組みの方向性を掲げております。</p> <p>誰もが快適に利用できる公共交通車両の確保は、高齢者の方のみならず、多くの方が公共交通を利用していくための重要な視点であると考えておりますので、いただいたご意見につきましては、今後、各施策を検討する際の参考にさせていただきます。</p>
	5	<p>町家、洋館の活用について</p> <p>現在 東山手甲十三番館を定期利用しまして楽器練習、教室の開講をしています。こと室内楽に置かれましては、居留地にあります洋館を用いることで、楽器本来の音を引き出せる環境がすでに整っておりますので、今後も引き続き整備いただきまして、発表と交流の場として整備いただければと思います。</p>	<p>都心部の方針の一つに「交流や多様な活動を生み出そう」を掲げ、取組みの方向性に「スポーツや文化芸術などを活用した賑わいの創出」を掲げています。音楽などの文化芸術を活用した賑わいの創出にあたりましては、町家や洋館などを活用していくという視点は重要であると考えておりますので、いただいたご意見につきましては、今後、各施策を検討する際の参考にさせていただきます。</p>
	6	<p>新たな文化施設について</p> <p>大ホールは規模はブリックホールより小さくとも、音楽に特化したものを希望します。このような音としての参考事例としまして長崎市内洋館にて実演可能ですので、検討の際はお申し付けください</p>	<p>いただいたご意見は関係所属に共有させていただきます。</p>

		い	
3	7	<p>1.はじめに</p> <p>これまで、地域探究等、課外活動を通して、観光・福祉・教育など、さまざまな領域で挑戦する高校生や大学生の姿を見てきました。そうした小さな実践が、地域に確かな変化を生み出していくことを実感しています。原案の中には長崎の未来への希望を感じる部分が多くありますが、一方で、「どう実現するか」や「多様な経済構造の形成」という点で、より深める余地があるように思いました。</p>	<p>グランドデザインは、土地利用・道路・公共交通といった「基盤づくり」と、まちの質を高めるための「仕組みづくり」から、経済再生・定住促進につながる長期的なまちづくりの方向性を示すこととしております。</p> <p>また、経済分野における計画については、「第五次長崎市経済成長戦略」を策定し、「戦略的な企業誘致やスタートアップなどの競争力のある成長分野を育成する。」「意欲ある地場事業者の経営改善や成長を後押しする。」「危機を回避しながら、雇用を支え、人材の育成と定着を実現する。」を3つの基本目標として掲げ、関連するさまざまな取組を行っています。同戦略に基づく取組として、例えば、若者の地元就職と定着の促進を目的に、大学等と連携して学生と企業の交流の場を創出する「NAGASAKI KAKKI」などがあり、交流機会の創出に努めています。さらに、挑戦が連鎖する地域経済につきましては、例えば、宿泊税を活用した観光産業を担う人材育成を目的とした小・中学生向けの「観光教育出前授業」の実施を行うなど観光で得た収益を還元する取組みを行っているところです。</p> <p>いただいたご意見につきましては、関係所属に共有するとともに、今後、各施策を検討する際の参考にさせていただきます。</p> <p>なお、ご指摘のとおり、どう実現していくかが重要でございますので、策定後は、グランドデザインを通して、関係者と対話を積み重ねながら取組みを実現していく考えです。</p>
	8	<p>2.観光だけに頼らない経済の形へ</p> <p>長崎では観光が重要な産業であることは確かですが、それだけに依存する構造は不安定かなと思いました。時期とかによってもたらされる効果にはばらつきがあると感じたからです。私の高校でもそうですが、どこの学校でも総合的な探究の時間が設けられているかなと思います。その中で感じたのは「横のつながり？」のようなものがないなと思ったことです。勿論専門領域の大人们たちと活動を通して携わっていただけるのはすごくいいことだと思ったけど、。でも他校だったりとは一切と言っていいほどかかわりがない。きっと似たテーマ、同じ領域だったりするグループがいるのだろうに、私もその人達と話したい、意見が欲しいと毎回探求の時間に思っていました。観光で得た収益を地域産業の育成や教育に還元する仕組み、地場企業と若者をつなぐ実践型プログラムなど、“挑</p>	

	戦が連鎖する地域経済”をグランドデザインに明確に示してほしいです。	
9	<p>3.若者が関わる政策設計を</p> <p>「若者に選ばれるまち」を目指すなら、若者が“政策づくりの当事者”として関わる場を整えることが不可欠です。私が関わった探究「OriHime 観光」では、テクノロジーを使い、外出困難者でも観光を体験できる仕組みをつくりました。地形や高齢化といった制約を前向きにとらえ、誰もが関わる観光の形を模索しました。こうした小さな試みを、行政や地域企業が後押しできる体制があれば、若者はもっと自信をもって行動できます。「実証プロジェクト型まちづくり」の仕組みづくりを提案します。あと！是非！探究資金もっとください！きっと長崎に残るきっかけをつかむ子がいるかもです！私も探求きっかけで地域創造好きになって長崎に残ること決めました！</p>	<p>ご意見のとおり、実践を通したまちづくりの人材育成は、他都市の事例（参考資料 83 ページ）にもございますように、重要な視点であると考えておりますので、今後、各施策を検討する際の参考にさせていただきます。</p> <p>また、小さな試みの後押しですが、社会実験を含めた小さな行動を積み上げ検証・改善し、実行につなげるアプローチが重要であると考え、本編 32 ページに「実践的なアプローチ」を記載しているところです。</p> <p>なお、若者が政策づくりの当事者として関わる場が不可欠であるとのご意見を踏まえ、本編 32 ページ「連携・協働・共創によるまちづくり」を次のとおり修正いたします。</p> <p>【修正前】</p> <p>将来のまちづくりを担う若い世代の意見を積極的に聞き、気軽に参画できることを目指します。</p> <p>【修正後】</p> <p>将来のまちづくりを担う若い世代の意見を積極的に聞き、<u>当事者として</u>気軽に参画できることを目指します。</p>
10	<p>4.DX とオープンな行政へ</p> <p>私は、DX やブロックチェーンのような技術が、行政と市民の距離を縮める力を持っていると考えています。私は探究活動を通して、「意見を持っても伝わる場所が少ない」という壁を感じました。行政がデジタルで“聴く力”を強めれば、まちづくりへの参加意識は確実に高まるはずです。</p>	<p>様々な立場の関係者と連携・協働してまちづくりに取組むうえで、広報広聴の観点は重要なものであると認識しておりますので、いただいたご意見については、関係所属に共有させていただくとともに、今後、各施策を検討する際の参考にさせていただきます。</p>
11	5.そこにしかない体験”の価値を守る	長崎独自の特性や資源を活かし、長崎でしか体験できない価値を

		<p>長崎の魅力は、景観や歴史だけでなく、「時間や場所の制約の中しか得られない体験」にあります。私はこれまで、その瞬間を「今」を大事にしたいという思いで、地域を歩き、地元の人との対話を重ねてきました。坂道や港町、異文化が交わる街並み一一それが他の都市にはない「体験の財産」です。保存と活用を両立し、学生による地域アーカイブ事業などを提案します。記録と発信を通して、長崎の“生きた記憶”を未来へつなげられます。</p>	<p>提供するコンテンツを創出することは、グランドデザインにおいても重要な要素であると考えており、各取組みの方向性に位置付けておりますので、これらの具体的な施策の展開に向け、いただいたご意見を今後の施策検討の参考にさせていただきます。</p>
	12	<p>6. 結びに</p> <p>長崎は、制約が多いからこそ創造的になれるまちです。坂がある、土地が狭い、資源が限られている——それを「不利」と見るのではなく、テクノロジー・アイデアで変えていく姿勢が、次の時代をつくると思います。</p> <p>私は学ぶ立場の一人として、グランドデザイン 2050 が、誰もが自分らしい形でまちづくりに関われる未来への確かな道筋となることを期待しています。</p>	<p>長崎の特徴である斜面市街地は、課題も多いですが、ご意見のとおり、その解決策が新たな技術などにつながる可能性などもございますので、今後も官民が連携しながら、未来の長崎に向けた検討を進めてまいります。</p>
4	13	<p>長崎駅から浦上川を挟んだ旭町方面への徒歩・自転車のアクセスを良くして欲しいです。現状、旭大橋は階段や交通規制がある為、稻佐橋へ迂回する事になっています。長崎駅周辺の開発が進んでいるので、ベッドタウンからのアクセス改善をお願いしたいです。</p>	<p>旭町が位置する浦上川右岸地区は、長崎駅や幸町に隣接する地区として土地利用のポテンシャルが高い場所であると認識しており、グランドデザインにおける都心部の詳細な取組みを示す「長崎都心まちづくり構想（令和 6 年 4 月）」では、整備方針の一つに「長崎駅周辺と浦上川右岸の新たな動線確保」などを掲げ、中長期的に取組んでいくこととしております。</p>

			ご提案いただいている取組みにつきましては、現段階では具体化に至っていない状況ではございますが、都心部の活性化において重要な事業であることから、引き続き、関係部局と協議を重ねながら検討を進めてまいります。
5	14	参考資料 24 ページ 実際に挙げられている市民の声を記載していて、同意見がありうれしく思うのと同時になるほどという意見もあったので、意見を共有できてよいと感じた。	<p>「オール長崎」の「オール」の具体的な対象については、市民、民間事業者、行政などまちづくりに関わるあらゆる主体を想定しています。人により様々な考え方があるかとは思いますが、多くの主体による連携・協働・共創によるまちづくりを推進していくためには、目指す方向性を共有することが重要であると考え、グランドデザインを策定しております。グランドデザイン策定後も、多くの方のご意見をいただきながら、「オール長崎」によるまちづくりを推進していく考えです。</p>
	15	オール長崎でまちづくりをすすめることを目指すにあたって、「オール」が何を指すのか、まちづくりをすすめるためにその「オール」が同じゴールを目指しているのか、という点が知りたいと思った。私は現時点では「同じゴールを目指している」という状態には至っていないと感じているので、所属・人種・世代などの違いに捕らわれず、長崎市にいるすべての人が同じゴールを目指すことに難しさを感じている。しかし、この理想が実現した際に得られるものは非常に大きいと思うので、実現に向けて挑戦する意義はある。	
6	16	参考資料 7 ページ 「様々な方々の強み」というものがどういうものなのか明確に書くべきです。これだとこの後に続く、『まちづくりの方向性をさしめ指すため策定』とあるが、この位置づけは本当に正しいのか疑問に	経済再生・定住促進につながるまちづくりの取組みや多様化・複雑化する都市課題に対応するにあたっては、市民をはじめ様々な立場の関係者が連携・協働してまちづくりに取組むとともに、それぞれが持つ強みや主体性を生かしていくことが重要であると考えています。このた

	<p>感じます。この目指す方向性や、様々な主体が、抱えている課題を解決しながら、どういう強みを活かしていくのかまで提起しなければ、このグランドデザインの根っこ自体にブレを感じ、残念ながら長崎の問題をただ並べているようにしか見えないため、根っこ修正・見直しを要請したいです。</p>	<p>め、グランドデザインは、オール長崎で経済再生・定住促進につながるまちづくりを推進すること目的に、長期的なまちづくりの方向性を共有するとともに、まちづくりの取組みをイメージしやすくまとめています。</p> <p>「様々な方々の強み」については、地域の状況や課題解決に向けてどのような施策を展開するかで異なり、課題解決に取組む中で明らかになってくるものと考えており、グランドデザインでは、それぞれの取組みイメージの中で、取組みのポイントや各主体の役割などを示しています。</p>
17	<p>参考資料 36 ページ</p> <p>「防災・安全対策」の市民の意見についてですが、ここには自治会加入率の減少の問題も追加する必要があると感じます。隣同士に隣接する、ある自治会同士はもともと仲が良かったそうです。しかし、一度喧嘩をしたきり仲が良くなることはなく、元々自治会加入者には一定のメリット（資金的な割引や火事の際に優先的な支援等）があったため加入率が多く、片方のみにある消防団も災害時はもう一方を助け合える関係ができていたそうですが、それもなくなってしまいました。そのため、今は消防団がある方の地域はもう一方からのなんの援助も受けることが出来ないため、悪く言えば「火事になんて行かなくていい」という判断になりかねないと地域の方が心配していました。こういった地域間の災害時の不安もこの事項で踏まえた上での検討が必要です。</p>	<p>防災安全対策につきましては、ご指摘のとおり、共助による災害対策も重要な要素であると考えており、グランドデザインにおいても、テーマ共通において、コンパクトで安全なまちづくりの推進として、ハード・ソフトの両面から災害リスクの回避・低減を行うこととしております。</p> <p>この災害リスクの回避・低減にあたっては、長崎市立地適正化計画の防災指針においても「自主防災組織の結成促進」などに取組んでいるところです。</p> <p>いただいたご意見を踏まえ、市民意見に「自治会加入率の減少による共助機能の低下」を追記します。</p>

18	<p>本編 14 ページ</p> <p>地域内交通サービスの維持としてひとつに集約とありますが、これにより朝からの通勤者や退勤者としては、人が増えると疲れているのに座れないとか乗れないという状況に陥ります。通勤時の便数を増やすなどの対策をとってほしいと考えます。</p>	<p>公共交通の維持に向けては、持続可能性を向上するとともに、公共交通の利便性の維持・向上が求められているものと認識しておりますので、いただいたご意見につきましては、今後、各施策を検討する際の参考にさせていただきます。</p>
19	<p>本編 17 ページ</p> <p>魅力的なコンテンツとはどういったものをイメージしているのが不明確です。動画をあげるのであれば、若者や観光客をターゲットにできると思いますが、これだけ高齢化の問題を示唆しているのであれば、長崎市にすむ高齢者が魅力的に感じられるものを提供できるように実際に現場へ行って話を聞いたり意見をもらったりするなど、市がもう少し中の人のもとしていく姿勢が必要ではないのでしょうか。中でパイの取り合いをして意味がないのはそうですが、中の人には魅力を伝えられないのに外には魅力が伝わるってことはないと思います。</p>	<p>「魅力的なコンテンツ」は地域特有の資源を活用したものを想定しており、例えば、自然を活用したアクティビティ、地域の食や文化、歴史的資源などに触れられる場を確保することで、周辺部へ訪れたいと思わせる魅力を創出しようとするものです。地域資源を活用した魅力的なコンテンツは様々なものが想定されることから、記載の表現としていますが、いただいたご意見を踏まえ、次のとおり記載内容を修正します。</p> <p>【修正前】</p> <p>魅力的なコンテンツ提供や地域活力を引き出す取組み</p> <p>【修正後】</p> <p><u>地域特有の資源を活用した</u>魅力的なコンテンツ提供や地域活力を引き出す取組み</p> <p>また、ご指摘のとおり、市内に住む高齢者の方々にも魅力を感じていただけることも重要であると認識しておりますので、いただいたご意見につきましては、今後、各施策を検討する際の参考にさせていただきます。</p>
20	本編 22 ページ	当該ページに記載する「専門家との連携体制」ですが、取組みの方

		<p>専門化との協力とありますが、何も専門化だけではなく専門分野を学んでいる学生なども授業などと組み合わせて考えていく機会があっても良いと思います。市さんは、このように市が良くなるように動いてくださっていると思うのですが、それに対して文句ばかり言われ自分たちだけがこの問題と向き合わないといけないという状況は誰にとっても苦しいことだと思います。そのため、「協力」という形で、自分たちだけでその問題を背負うのではなく一緒にやつていこうという姿勢もたしかにきついことは増えるかもしれないけど、市の職員を増やしたり未来を担おうとしたりする若者をこの地で生み出していくという点に置いて重要だと感じました。</p>	<p>向性「未利用ストックなどを活用した環境づくり」等を推進していく上で、不動産や建築関係などの専門家との連携が重要であると考え、取組みのポイントに記載しているものです。</p> <p>ご意見にございますように、必ずしも専門家だけではなく、専門的視点を有する大学等との連携や、学生の方も含めた体制作りも重要な視点であると考えており、まちづくりの担い手確保に関する方向性も掲げておりますので、いただいたご意見につきましては、今後、各施策を検討する際の参考にさせていただきます。</p>
7	21	<p>グランドデザインではハード的なまちを整備する方針が書かれているが、ハード→ソフトの順番、つまり、箱をつくってから中身をつくる、だと、ソフトの内容が限られるし、内容によってはハードをまた作り変えないといけない可能性がでてくる。そう考えると、たとえば人材をどうやって育成するか、どんな人材を育成するか、などのソフト的まちづくりの方を優先すべきだと思うが、なぜ先にハードをやろうとしているのか。ハード→ソフトの流れだからか、ながさきの良さを十分に生かすためのまちづくり、という感じではなく、新しく一から長崎の魅力や良さを作らなければいけない、作っていくような計画になっているように見える。あれもいいこれもいい、たくさんあってそれでいい、のように曖昧なため、本当の長崎らしさは何で、それをどうやって活かしたいのかがわからず、共感できない計画になっている。</p>	<p>グランドデザインの検討にあたっては、参考資料第2～3章に記載するとおり、エリアとネットワークの視点で設定した5つのテーマごとに現況分析を行い、現在のまちづくりの動きなども踏まえた上でエリア・ネットワークのポテンシャルを整理し、本市のまちの可能性を整理しています。そのうえで、5つのテーマごとにまちづくりの理念を設定し、現状や市民意見等を踏まえ、まちづくりの方針や方向性等の整理を行っています。</p> <p>ご指摘のとおり、ハード整備にあたっては、空間や機能を確保するだけではなく、空間の求められているニーズや使われ方など、ソフトの取組みを意識したうえで、整備を推進することが重要であると考えています。このため、本編32ページ「4-1：これからの展開」では実践的なアプローチとして、社会実験を含めた小さな行動を積み上げ検証・改善し、実行につなげるアプローチを記載するほか、取組みの方向性の一部にも関連する記載を行っているところです。</p> <p>なお、財政状況が厳しさを増す中、既存ストックを有効活用すること</p>

		が重要な視点であることを踏まえつつ、方向性の整理を行っています。
22	グランドデザインはまちづくりの方針を市民と共有するものなのに、すべてにあくまで 1 例であるだけ、と書いており、結局これから長崎市が目指していくこと、やりたいことの具体像がまとまって見えてこず、本来の目的にそぐわないようになっているように見える。具体例が多すぎて、情報が広く浅くかでこれからの方針がちゃんと伝わらない。具体例自体は少なくていいから、あくまでもやる理由や目的などをちゃんと追った上で、本当に長崎市がやりたいことと一致しているような具体例、事例のみ取り上げ、説明、記載するべきではないか。	グランドデザインは、オール長崎で経済再生・定住促進につながるまちづくりを推進することを目的に、長期的なまちづくりの方向性を共有するとともに、まちづくりの取組みをイメージしやすくまとめたものです。 このため、市民や様々な立場の関係者の方々に取組みのイメージを具体的かつわかりやすく示す必要があることから、現時点で本市においても取組みの実現可能性がある様々な事例やイメージを用いてまとめています。 なお、各取組みの方向性に記載する取組みイメージにつきましては、様々な取組み手法があること、時代や社会情勢の変化に伴い手法も変化することが想定されるため、一例として記載しているものです。
23	人口が減る中で、どうしても長崎にいるとなると、減らさなきやいけない選択肢が出てくると思う。たとえば、ライフスタイルでいくと坂の居住とか。そこあたりの生活の選択肢、バリエーションを、どうやって人口が減る中で保っていこうと考えているのか。コンパクトに、かつネットワークでつなぐ、記載されているようなやり方では、選択肢の幅が狭まるか、選択肢の幅を思うように狭められず、資金的に苦しくなるだけのように思う。	広がった市街地のまま人口減少が進み、都市の密度が低下すると、サービス産業の生産性の低下や行政サービスの非効率化、コミュニティの存続危機など、様々な悪影響を及ぼすことが懸念されます。このため、長崎市都市計画マスターplanでは、人口減少等が進展する中でも持続可能な都市構造の実現を目指すため、コンパクト・プラス・ネットワークの考え方に基づき、将来都市構造「ネットワーク型コンパクトシティ長崎」を掲げています。 コンパクト化の推進にあたっては、立地適正化計画を策定しており、居住誘導区域やそれ以外の区域を定め、安全で暮らしやすい場所に居住を緩やかに誘導していくことを推進しており、グランドデザインはこの考え方を踏まえつつ検討を行っています。

	24	<p>「便利、快適」が至上命題のように出てくるが、長崎が目指すところは本当にそれでいいのか。坂を毎日昇り降りしている人が健康だという研究結果があり、そこを魅力だと思う人がいるにも関わらず、「便利、快適」だけを追求しようとしているのはなぜか。</p>
	25	<p>検討委員会に、参考人として女性の方々がいらっしゃっていたが、それが書かれないのでなぜか。女性がない、と問題になったのだから、どういう人からも加えて意見を貰っているのか、書くべきではないか。</p>
8	26	<p>長崎市在住者が多く転出する時期は、主に進学する高卒時と就職する大卒時だといえる。それは、進学先や就職先の選択肢が長崎市内では少ないからであり、現状または今後それを拡大するのは難しいといえる。よって、人口減少対策として、転出した子育て世代を再度呼び込む必要性がある。</p> <p>本クラス 41 名のアンケートでは、卒業後の進学先については県内 26 名、県外 15 名、就職先は県内 14 名、県外 27 名と回答。家族ができたらどこの住むかでは県内 19 名、県外 22 名であった。残念ながら、県外に住むと選択した生徒は、子育て支援の充実度や公共施設の耐震化率が低いこと、低賃金、雨天時に子どもを遊ばせる場所がない、資料では公共交通網カバー率</p> <p>グランドデザインでは、各テーマにおいて理念を掲げており、地域拠点・生活地区及び斜面市街地においても、その魅力を生かしていくことを掲げています。その中で、地域の意見交換会などを踏まえ、便利さや快適さといった視点が重要であるとのご意見をいただいていること、また、定住を促すうえでも重要な要素であると認識しております。</p> <p>便利さ快適さを追求するあまり、地域の魅力が衰退しないよう考慮しながら、施策の検討を行ってまいります。</p> <p>ご意見を踏まえ、本編 35 ページに若者・子育て・高齢者世代で構成される団体から関係人として委員会に参加いただいていることを追記します。</p> <p>ご指摘いただいた内容は、人口減少対策を進める上で重要な課題であると認識しています。</p> <p>長崎市重点プロジェクトアクションプラン（令和 6 年 2 月策定）の経済再生プロジェクトでは、重点テーマに「交流拡大」「地場産業支援」「新たな産業の創出」を、少子化対策プロジェクトでは、重点テーマに「長崎市で子どもを持つ希望を叶える」「（子育て家庭に）長崎市を選んでもらう、住んでもらう」を掲げ、施策の重点化を図っています。遊び場の確保や公共交通の利便性については、関連する取組みの方向性を掲げておりますので、いただいたご意見につきましては、今後、各施策を検討する際の参考にさせていただきます。</p>

		80%となっていたが、実際は交通費が高いうえ本数が少なく不便という回答が大半であった。そのあたりの対策が必至といえる。	
	27	これから外国人労働者(移住者)を受け入れる必要性があり、長崎という土地柄外国人を受け入れる土壌があるため、外国人が住みやすい環境づくり（日本語学校や英語を話せる人材を増やすなど）、交流の場をつくっていくことも転入者を増やすことにつながると考える。	ご指摘のとおり、多様な人材が活躍できる環境や国内外の方との交流の場を創出していくことは重要であると考えており、本編 10 ページにおいて、取組みの方向性に「居場所づくりや交流が生まれる空間を創出」を、本編 29 ページのテーマ共通において、だれもが住まいを確保しやすい仕組みの構築、を掲げています。いただいたご意見につきましては、今後、各施策を検討する際の参考にさせていただきます。
	28	都心部においては、これまでのように観光業を軸に、他県からの旅行者及びインバウンドを受け入れて収入を確保する必要がある。特に世界唯一の被爆県として広島県とも協力し、今後の被爆体験者の減少に対応した VR や AI を利用し体験型の研修が行えるような形で被爆の恐ろしさを後世に伝えていける施設を作って、日本中の小中高生の修学旅行に組み込んでもらう事業も必要ではないかと考える。	グランドデザインにおいても、新たな交流を生み出すために、長崎市でしかできないコトを体験するコンテンツの創出は重要であると考えております。このことから、いただいたご意見を踏まえ、デジタル技術を活用した施策検討の参考にさせていただきます。
9	29	本編 7 ページ 坂の上には高齢者が多く買い物難民などが沢山いますし、その人たちにとってはバスなどの公共交通機関の指標だけでは、様々な場所で生活サービスを享受しやすいといった可能性は薄いと思いますが、その点はどうお考えですか。	本編 22 ページに記載のとおり、斜面地に合った暮らしやすさの確保で、未利用ストックの多機能な活用などの方向性を掲げています。
	30	本編 8 ページ	立地適正化計画では、斜面地における建築の制限ではなく、安全

	<p>長崎市の立地適正化計画では、斜面地に新たに家屋を建てることは制限されているはずです。そのため斜面地ならではの暮らし方や過ごし方を選択できるという記述は矛盾しているように思えます。</p>	<p>で暮らしやすい場所に居住を緩やかに誘導していくことを推進しております。グランドデザインはこの考え方を踏まえつつ検討を行っています。</p>
31	<p>本編 11 ページ 人中心の楽しい都市空間を創出しようとあるが、整備して起こる交通渋滞などの問題へどのように検討しているのかを知りたい。その解決策の一つとして宮崎市のモビリティ運行を挙げているが、どの程度の効果があるかを検証などしたのでしょうか。</p>	<p>人中心の楽しい都市空間の創出にあたっては、既存の公共空間の利活用のほか、道路空間の再編などを取組みイメージとして掲げてありますが、具体的な施策実施にあたりましては、現在の交通量、整備後の交通量の転換はもとより、交通手段の転換を促す施策も踏まえ、道路管理者・交通管理者や地域にお住いの方々等と協議調整を行いながら、検討を進めていくことになるものと考えております。 なお、取組みの方向性「移動の支援」に関する参考事例として宮崎市の事例を掲載しているもので、解決策として取組むことを定めたものではありませんが、本市において取組む場合には、効果検証は必要であると考えております。</p>
32	<p>本編 17 ページ 地域の魅力に触れられる場の確保では、なんで長崎市の例を用いて説明していないのか。長崎市の魅力なのだから長崎市の事業を取り上げなければ今の長崎には魅力がないと言っているようなものだと思う。</p>	<p>ここでは、地域の魅力に触れられる場の確保の一つの取組みとして、尾道市における活用可能な空き家を地域資源と捉え、地域の魅力に触れられる場を確保している事例をイメージとして掲載しているものです。</p>
33	<p>35 ページ 多様な暮らしや多様な人々の交流・活動の醸成を実現するためのグランドデザインなのに、検討委員会委員に女性が参画して</p>	<p>検討委員会の委員構成にあたっては、都市計画やエリアマネジメントなどの専門的な知見や商工業などの関係団体から幅広い意見を本計画に反映させるため、性別や年齢にかかわらず、様々な分野から選</p>

		おらず、多様じゃないと思いますがその点についてどうお考えでしょうか。	任しましたが、結果として男性のみとなりました。このことから、より幅広い意見を頂く必要があると考え、第2回検討委員会から、関係人として4名の女性に参加いただき、意見をいただくとともに、若い世代・女性を中心とした意見交換会を開催するなど、女性のご意見も踏まえながら検討を進めてきたところです。策定後においても、多様な方々のご意見をいただきながら、施策の検討を進めてまいります。
10	34	プレゼン全体の感想：事例のコピー貼り付けに過ぎず、そこに至る過程の訴求できていないように思えます。	連携・協働したまちづくりを進める上では、取組みのポイントを示すとともに、具体的な他都市の取組みを見ていただくことが必要と考え、参考事例として他都市事例を掲載しているものです。
	35	JAZZ street の件：50年ほど前（多分もっと前かな）から神戸・三宮の地下街の片隅で7・8個のパイプいすを置いて、セミプロみたいなデュオが観客を前に無料演奏をしながら演奏会のリーフレットを配るのをよく目にしました。これが現在の神戸 JAZZ street の原型だと思います。他事例を表面的に真似するだけでなく、市民が何を求めてるか・年代層・地域性・永続性などを考えて独自性のあるイベントしてゆく必要が有るように思えます。	他都市の事例をそのまま本市に当てはめるのではなく、市民意見を聞き、本市の課題や特性を踏まえつつ、施策を展開していくことが重要と考えています。
	36	地域再開発の件：市内にはいくつもの開発地があるようですが、物流の為の道路が考慮されていない様に思えます。ほとんどの道が軽バン対象で、大型トレーラーが行き来出来るような道路がセットで整備されていなように思えます。これから物流はもっと大型化します。的を絞った少数の企画をスピード感を持って実施してほしいものです。	参考資料 42 ページ掲載のとおり、幹線道路の整備を推進しており、長崎県においては、平常時・災害時及び物流・人流の観点から、今後 20～30 年間を見据えた総合交通体系の基盤となる「長崎県新広域道路交通計画」を策定しておりますので、県とも連携しながら道路ネットワークの形成を推進してまいります。

	37	景観の保存について：現在ではもう海辺・川縁の景観 1 等地に沢山のマンションが建ってきています。景観を考慮するのなら高さ制限を設けるべきです。動線を確保しつつ、傾斜地と景観を生かした戸建て住宅・住宅リホーム・マンションを奨励し、設計コンテストを定期的に実行し、施工事例を市民に採点して欲しいものです。	本市は平坦地が少ない地形的制約がある中、持続可能な都市構造を目指す将来都市構造「ネットワーク型コンパクトシティ長崎」の実現においては、限られた平坦地で居住機能を確保することは必要であると考えています。なお、本市の景観形成においては長崎市景観計画に基づく景観づくりに取り組んでおり、特に重要な地区には景観形成重点地区を設定し、景観保全に努めているところです。
	38	2 拠点生活のすすめ：直近で、大企業を誘致するのは非常に困難なことだと思いますが、大企業に勤める人のホームタウンになることはハードルが低いと思います。例えば、熊本・福岡に仕事を持つ人を誘致し、住居・交通手段のサポートし・勤務地ごとのコミュニティーを作ることは、発展性があると思います。	いただいたご意見については、今後の施策展開の参考にさせていただきます。
	39	専門性に訴求した求人：ニッチな部分に専門的な知識を持つ高齢者が見過ごされているような気がします。但し、常にネックとなっているのは、PC が使えないと言う一言。専門性を生かせる手助けをして、社会復帰をもらい税収に寄与出来るシステムを作る事はいかがですか。	まちづくりの担い手確保にあたっては、若い世代だけでなく幅広い年代の方々に参画いただける環境づくりが重要と認識しておりますので、いただいたご意見については、今後の施策展開の参考にさせていただきます。
	40	現行のプロジェクトについて スタジアムシティ～JR 長崎 1.R202 スタジアムシティ～JR 長崎間の蛇行した道路は、新幹線の横を並行して直線的に是正できなかったのか。長いこと練ったプロジェクトの割には“道づくり”という行政の基本が全く見えません。私には、駅前 202 号線の U ターンはその象徴に見えます。 2.宝町のアンダーパスは無くせなかったのか。（異常潮位で冠	いただいたご意見については、関係所属に情報共有させていただきます。 なお、都市計画道路宝町立神町線の稻佐立体交差部（宝町のアンダーパス）については、当初 JR 長崎本線との交差部を平面構造とすることになっておりましたが、想定よりも交通量が減少していないこと、隣接地で長崎スタジアムシティが建設され多くの歩行者が往来することから、歩行者と車両交通を分離することで、歩行者の安全と道

	<p>水の可能性が高い) 2019年3月26日に起きたことがこれから先、頻発しないとも限りません、美しくなったアンダーパスのそんざいになんのメリットをも見出せません。</p> <p>3.宝町商店街の復興を並行して考えられなかったのか。住民あっての町おこし、その地域を置き去りにするのではなく、地域を巻き込み発展させる事を念頭に進めてほしいものです。スタジアムシティの出現に当の地元の人は恩恵を受けていますか？</p> <p>4.駅前に地下街はできなかったのか。（雨の日、風の日高架橋を歩くのはとてもつらい）観光立国長崎を目指している長崎にしては、あまりにも策がなさすぎではありませんか。そして、歩道橋を渡った先がパチンコ屋さん?????</p>	<p>路交通の円滑化を図るため、稻佐立体交差の保持を図ることとした経緯があります。なお、冠水対策ですが、長崎県において冠水要因に対する対策を反映したポンプ場の改修計画を整理し、整備が行われています。</p>
--	--	---